



ストーリー 番号	ストーリー名	審査結果	審査時のコメント
25	「いざ、鎌倉」 ～歴史と文化 が描くモザイク 画のまちへ～	認定継続	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 前回の総括評価・継続審査の際に課題として提示した項目のかなりの部分が改善され、計画に盛り込まれており、日本遺産のストーリーを活かし、課題の解決も含め、鎌倉観光の推進をしようという姿勢が認められ、事業全体が一定程度深化していると感じた。</li><li>■ 課題となっていた地域コーディネーターの確保について、今後の方向性が具体的に示されている。日本遺産事業全体の戦略に係る議論がしっかり行えるよう、体制整備を進めていただきたい。</li><li>■ 日本遺産構成文化財への誘導を図るには、もう一段の誘導サインや看板等の整備が必要。また、「混雑度マップ」は取組としてはよいと思うが、効果測定等ができておらず、検証が必要。</li><li>■ 特定地域への極度の混雑・集中（いわゆるオーバーツーリズム）は、日本遺産以前に今の鎌倉が抱える大きな課題となっており、地域住民が快適な暮らしを維持できるよう（住んでよし訪れてよし）な、分散マネジメントの施策とその具体的実践が必要。日本遺産事業が、これらの課題に対して、どのように寄与できるのか、その手法等を通じた工夫をさらに講じて欲しい。</li><li>■ 観光事業化に係る今後の計画においては、一過性のモニターツアーやイベントではなく、そもそものストーリーテーマである「モザイク」という表現をもう少しわかりやすく表現することが必要。モザイクという用語は「いろいろな時代と多様な歴史文化が揃っている」という意味で用いられていると思うが、歴史都市はどこも「モザイク」であり、この点に、もう一段の鎌倉らしさや鎌倉ならではの表現と見せ方が必要。</li><li>■ 普及啓発活動は、学校等も含めて取り組まれているが、なによりも住民の認知度の向上が喫緊の課題。「モザイク」都市鎌倉の魅力を、観光客だけでなく地域の方々にも認識して頂けるような戦略が必要。</li></ul>

ストーリー 番号	ストーリー名	審査結果	審査時のコメント
26	「なんだ、コレは!」 信濃川流域 の火焰型土 器と雪国の文 化	認定継続	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 観光部門、学芸部門ごとに実績のある地域コーディネーターを配置するとともに、企画戦略会議、学芸・広報・観光WGを設置し、これからの事業実施に必要な体制が示されているが、全体に博物館等を中心とした行政主導であり、地域コーディネーターにしっかりとした権限を付与するなど、実効的な取組を行っていただきたい。</li><li>■ 構成自治体間の温度差や文化財部局と観光部局の連携の薄さがこれまで課題であったところ、修正版の地域活性化計画ではその点が改善されていたため、今後、計画を着実に遂行していただきたい。</li><li>■ 縄文海進により豪雪地帯となった信濃川流域というストーリーの骨格だが、実際には積雪量が少ないエリアを含むことも踏まえて戦略立案していくことが重要。</li><li>■ 構成文化財のための解説展示施設等の新設や、日本遺産ストーリーを理解いただくための展示、外国人スタッフの配置等、適切に環境整備されているが、十日町・妻有など、長年、大地の芸術祭を推進してきた地域と比べて、他の市町では、日本遺産ストーリーに即した整備は、博物館以外はまだまだ不十分の印象が強い。特にフィールドを中心としたガイド人材や事業人材の掘起しと活用が大きな課題と思われる。</li><li>■ 構成文化財の展示施設等への円滑な周遊が難しい環境に対して、ソフト・ハード両面からの整備が必要である。</li><li>■ 出前授業・博学連携事業、縄文カムバックサーモン事業をはじめ、普及啓発へ向けた多彩な取組が継続的に行われ、効果をあげている。</li><li>■ 情報発信に係る計画においては、海外の視点を加える必要がある。</li></ul>

ストーリー 番号	ストーリー名	審査結果	審査時のコメント
31	森に育まれ、 森を育んだ 人々の暮らし とところ ～美林連なる 造林発祥の 地“吉野”～	認定継続	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 吉野町と下市町の活動が中心で、他のシリアル6町村の活動報告が十分になされておらず、シリアルとしての連携した取組を深めていくことが課題。</li><li>■ 日本遺産ストーリーの源泉ともいえるべき、林業の再生と活性化というテーマは、少し長期の課題だが、ストーリーを構成する資源保全のための取組は多角的に行われており、前回の審査時と比べて大きく進展している点は評価できる。</li><li>■ 「ネイチャーガイド養成講座」などが定期的開催されていることは評価できるが、実際のガイドの運用、活躍の状況が不明である。</li><li>■ 下市町のKITOには、学生や子供などの若年層が多く集まっており、日本遺産ストーリーをベースにした商品づくりや販売ができる環境が整っており、人材獲得や育成の環境づくりが行われている。加えて、日本遺産を活用して活躍できるような、現実的な場づくりも重要だと思われる。</li><li>■ ストーリーを伝えるための解説案内板等の整備が現状では不足しているが、KITOと金峯山寺をハブ施設として活用するにあたりKITO内に吉野全体の解説案内を置く等、整備が計画されており、計画の着実な実行が望まれる。</li><li>■ 日本遺産ストーリーを伝える二大拠点・吉野町の金峯山寺と下市町のKITOを結ぶアクセスが脆弱であり、円滑な周遊が難しい環境に対して、ソフト・ハード両面からの整備が必要である。</li><li>■ 教育旅行や企業研修など、林業の未来を踏まえた日本遺産ストーリーの普及が重要であり、KITOのような成功事例についてさらなる研究を進め、これらを計画的に普及できるような仕組みづくりを進めて欲しい。</li><li>■ 情報発信の取組に具体性が乏しく、「売り」である森林文化についてのPRをもう少し深化させる必要がある。</li></ul>